

町の方針を投げかけた今、重要なのは

住民意思が、どこにあるか。

光ファイバ網の整備によって変わる町の今、これから…。

果たして、この「未来への投資」は、事業費に見合う効果を上げることができるのだろうか。事業実施の責任者である佐藤公敏町長は「皆さんの意見を計画に反映させたい」と話した。



町ホームページは今年リニューアルを実施。見やすさを実感する佐藤町長。

ここにも、一つの物語。
広報かわねほんちょう

主要事業として位置付け

現在、町で計画を進めている「情報通信基盤整備事業」は、旧町の合併時に策定した「新町建設計画」の主要プロジェクトとして位置付けられ、第1次総合計画に引き継がれた本町の重要施策の一つです。

事業費の大きさもさることながら、光ファイバネットワークの町全域への整備や全世帯を対象とした告知放送端末機の設置など、本町にとって非常に大き

な事業といえます。

今回の事業で各世帯に設置し、開始される「告知放送」。音声だけではなく、文字情報、映像・画像などの情報も併せて発信することができるという特長を持っています。

高齢者福祉への活用イメージとしては、告知放送やテレビ電話機能を活用した健康相談の実施や、見守りなどができるのではないかと考えています。

さらに、介護用品や日用品などの買い物支援などへも活用で

住民説明会を開いてみて

各地区で開いた住民説明会を

未来への投資

すべての人にブロードバンドを

通じて思うことは、インターネット環境が比較的良好な町の中心部にある地域では、今の状態にある程度満足している様子がうかがえます。

しかし、中継局から距離が離れれば離れるほど、インターネット環境にストレスや不満を感じる人が多く、本事業への期待や関心も高まっているように思いました。

現在町内には、ADSL回線

皆さんの意思を確認したい

将来の町の姿を想像したとき、光ファイバ網がいかに重要であるかは、皆さんご理解いただいていると思います。

ただし現在、議会でもご指摘を受けているように、告知放送端末機や各世帯への光ケーブル引き込みについて、再検討の余地が残っているのも事実です。

「光ではなく、無線方式を採用すべきでは」「将来、設備の更新時期を迎えたときの費用負担はどうなるのか」といったご意見もいただいています。

今後、加入意思の確認を含めた「全世帯対象の意向調査」を

実施する方針です。事業の主旨や目的をご理解いただいた上で、皆さんの意見を聞き、本事業に反映させていきたいと考えています。

町が計画しているこの整備事業は、本町で生活を営むすべての世帯、すべての人が対象です。安心して日常生活を送ることができるよう環境を整え、地域の元氣をつくりだすための第一歩だと考えています。

Top Interview

Satoh Kimi-toshi

川根本町長

佐藤公敏